

## 「人生のやる気デザイン」研究部会（第19回）

日時：2021年12月13日（月）13：00～15：30

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：渡辺弥生・榎本淳子・杉本希映・中井大介・中谷素之 各兼任研究員

吉久知延所長・山口和人・金沢千秋・泉水里香（野間教育研究所事務局）

欠席：倉住友恵

内容：（1）杉本研究員：「いじめ予防に対する保護者のやる気をデザインする」

### ◆保護者向けいじめ予防プログラム介入研究の結果概要

#### 1. 方法

- ・実施時期 2021年9～10月
- ・調査参加者：プログラム実施群（25名）とコントロール群（22名）
- ・方法：オンラインでの講習会残後でのアンケート調査
- ・調査内容：保護者のいじめ知識尺度、いじめに対する効力感尺度、養育態度尺度

#### 2. 結果

- ・事前の実施群とコントロール群の各尺度の得点差はない
- ・コントロール群の介入前1ヵ月間の得点差の確認では、「いじめ知識」には差がない。「いじめ効力感」は「外部対応」と「子どもへの対応」で差が出た
- ・実施群3期の変化では概ね介入の効果が確認でき、保護者の養育態度は変化なし

（2）中井研究員：「人生のやる気をデザインする」の研究報告

#### 1. 「自己拡張」によるワクワクと「親密な関係」にフォーカスした研究として下記の文献を紹介

Aron, A., Lewandowski, G. W., Jr., Mashek, D., & Aron, E. N. (2013). The self-expansion model of motivation and cognition in close relationships. In J. A. Simpson & L. Campbell (Eds.), *The Oxford handbook of close relationships* (pp. 90-115). Oxford University Press.

2. 動機づけの原則及び自己拡張に関する研究の報告
3. 他者包摂の原則について
4. 今後の研究、将来の方向性

（3）中谷研究員：「コロナ禍における多文化教室環境形成のメカニズム」について

#### 1. 問題意識

グローバル化・多様化する社会における学校教育の役割：公教育、義務教育として、さまざまな属性や特性をもつ国民（子ども）に、現代社会、未来の社会を生きる学力を身につけさせる必要

→ 多文化包摂的な教室環境：さまざまな背景やニーズをもつ生徒にとって過ごしやすく、ウェルビーイング、動機づけが高まりやすい環境なので

⇒ 多文化教室環境での学級づくりの重要性が問われている

2. これまで、教室のもつ異なる社会文化的背景、多文化性を考慮した研究例はほとんどない。グローバル化する学校教育において、多様な文化背景の児童・生徒を多数抱える教室環境において、動機づけを促進する多文化的教室環境はどうあるべきかについて、教育心理学的な知見が求められている
3. 学校教育における文化的・発達の多様性が拡大：同じ学校、学級のなかに、「自分と同じ、ではない」他者が存在する状況が一般的に。「人と違う」ことが排除の理由にならず、多様性を価値づける教育や指導の重要性が増している
4. 本研究では、これまでの研究で行われてきた児童による評定とは異なる側面に立ち、より多面的に教室環境の特徴について検討するために、教師評定による教室環境の評価を行う。あわせて、パンデミックによる学校教育への影響を検討するために、19年度（パンデミック以前）と20年度（パンデミック時期）における、教師の働きかけと学級風土との関連について検討を行うものとする

・次回研究会 2022年1月18日（火）13:00～